

明治元十月二十日より明治元十月廿二日まで

P8310796right

廿日亥 雨本風霰

山本長駿府宅へ太郎同居を頼により時服から地並次郎ふ□縮めん小袖、鍬児同小前差天我普賊半衿地二つ分を遣す、休左衛門家内娘へ籠甲簪へ二方添、置みやげとして遣す、武川へ休左衛門

を遣し過日問合せし案文受取る、右案文を認め屋敷図切紙扣ひかえる為持、休左衛門を渡辺伴方へ

遣し絵図へ名主奥印を取儀、其名の儀打合す、孫蔵来り帰□いたしに付、上総随従の儀、

□申聞る

忠介荷才領済帰来る、松井助明後日駿州出立告別に来り申急にて帰る、山本長□本を贈らる、六□家内へ□服ゴロー残地天我□賊半衿地遣す、広沢順明日出立とて告別に来る、夕餐

鯉を喫し挙家並山本富沢野口等へも及ぼす、空介来り泊宿

廿一日子 晴

P8310796left

保三早天駿府出立、孫蔵差次等来り預こ餐を設く、常司並空介船並明日出立懸引等の儀に付、其向へ懸合として来り呉、右同事件にて大工鉄こ右衛門も来り、来る廿五日迄、挨拶治定巨細

申聞旨也、出立支度手待として金蔵来る贅に属す、山本長より割烹品一大皿を贈らる、海船の儀に付、常司支度小網町へ行き入事こ往返す

廿二日丑 晴午下陰夜雨

(家族出立)家族今日出立に付、大助より菓子折、休左衛門方より同断、次郎へ届出す、前同断に付手代父随

従を望み申出附属し行く、休左金蔵礫奴へ賀銀遣す、大助金蔵小網町迄見送りとして行く、午前出立鍬児の涕泣、次郎の悲泣に袂を湿せり、午下大助金蔵帰り来る、行徳船にて出船、駕夫は当地より召連れ者彼表迄雇連の積り、但常司は十八日より五泊して此度忠介

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。